

第3回富山市上下水道ワークショップ

○テーマ 「ツクル」

1 日 時 令和8年8月19日（水）午後2時～午後4時30分

2 場 所 流杉浄水場 管理本館 2階「会議室」

3 参加者 20人

4 開催内容

（1）挨拶 富山市上下水道事業管理者 前田 一士

（2）説明・体験

①水道事業の歴史紹介 （経営管理課）

②流杉浄水場体験 （流杉浄水場）

- ・概要説明、浄水クイズ
- ・浄水実験
- ・施設見学
- ・利き水

（3）ワークショップ

4グループに分かれ、市の職員も加わり意見交換を実施

5 開催概要

上下水道局の各担当者から富山市の水道事業の歴史や流杉浄水場を説明し、浄水実験や施設見学、利き水を体験してもらい、理解を深めてもらいました。

ワークショップでは、4グループに分かれ、今日の感想や浄水場を見学して水道に対する印象の変化について意見交換し「現在から過去の人たちに向けてメッセージ」について、各グループで意見を集約するとともにその発表を行いました。

参加者からは、「浄水実験を踏まえて施設見学したので面白く感じた。」「できたての水に触れるなど浄水場でしかできない体験ができた。」といった感想や、過去の人に向けて「水道施設を作るときにどう更新するかまで考えていたのでしょうか?」といった問題提起、「安い料金で水を届けてくれてありがとう。」「安心安全な水をありがとう。」といった感謝の意見などがありました。

6 主な意見交換・グループ発表まとめ

「そのまま飲む水をつくるって？（水道水のレシピとは？）」

- ①今日の感想を教えてください。
- ②流杉浄水場の見学をして印象が変わりましたか？
（以前と現在の水道に対する考えの変化はありましたか？）
- ③現在から過去の人たちに向けてメッセージ

【Aグループ】

○良かった点

- ・ 設備構造がシンプルで分かりやすく、安心感がある。
- ・ 浄水場が適切に運営されていることを確認できた。

○課題・懸念

- ・ シンプルな設備ゆえに、逆に不安を感じる。
- ・ 耐震化がまだ十分ではないのではないかという懸念。
- ・ 大規模施設を今後どのように守っていくのか不安がある。
- ・ 富山のおいしい水の水源を今後どのように守っていくのが課題。

【Bグループ】

○良かった点

- ・ 初めて浄水場を見学した人が多く、水づくりの仕組みに感動した。
- ・ 泥水がきれいな飲料水になる過程に驚いた。
- ・ 使用済みろ過砂が農業高校で再利用されていることを知り、資源循環を実感した。
- ・ 水が循環して活用されていることへの理解が深まった。

○課題・提案

- ・ セキュリティ面や耐震面への不安がある。
- ・ 市民向けの見学会をもっと実施すると良い。
- ・ 浄水場の役割や重要性をもっとPRしてほしい。
- ・ 浄水場を整備した先人たちへの感謝の声があった。

【Cグループ】

○良かった点

- ・ 蛇口をひねれば安全でおいしい水が飲める「当たり前」のありがたさを再認識した。
- ・ 水道局職員への感謝の声が多く挙がった。
- ・ 実際に施設を見ることで浄水処理の仕組みを理解できた。

○要望・提案

- ・ ろ過工程など、さらに詳しい技術的な説明を聞きたい。

- ・このような見学機会を増やしてほしい。
- ・見学を通じて施設維持の必要性や水道料金改定への理解促進にもつながる
との意見があった。

【Dグループ】

○良かった点

- ・富山の水のおいしさを改めて実感できた。
- ・先人たちが築いた浄水施設と、その水を守り続ける関係者への感謝の気持ちが共有された。
- ・少ない薬品でシンプルに浄水している仕組みを実際に見ることができた。
- ・セキュリティ対策がしっかりしているとの評価があった。
- ・周辺が市街地ではなく車もほとんど通らないので、排気ガス等が入ることを心配しなくてよいことがわかってよかった。

○課題・要望

- ・漏水が発生してからではなく、予防保全として早めの修繕を進めてほしい。
- ・施設更新を進めてほしい。
- ・新規開発だけでなく、既存インフラの維持更新にも十分な予算を配分してほしい。

【全グループ共通の主な意見】

○高評価だった点

- ・富山の水のおいしさを再認識できた。
- ・安全な水が供給されることへの感謝。
- ・浄水場の仕組みを実際に見て理解が深まった。
- ・水道事業を支える職員や先人への感謝。

○共通する課題

- ・耐震化の推進。
- ・老朽設備の維持・更新。
- ・漏水対策など予防保全の強化。
- ・市民へのPRや見学機会の拡充。
- ・水源保全と将来に向けた安定運営。

【まとめ】

参加者全体としては、「安全でおいしい水が当たり前に供給されていることへの感謝」が最も大きな気づきであった。一方で、老朽化対策、耐震化、漏水対策、将来の施設維持といった課題への関心も高く、浄水場の取り組みを市民へ積極的に発信していくことが重要であるとの意見が共通して見られた。